



# 第2回 尻別川流域委員会が 平成21年6月2日に開催されました。

平成19年3月に長期的な河川整備の基本となるべき方針を示す「尻別川水系河川整備基本方針」が社会資本整備審議会河川分科会の審議を経て決定しました。

北海道開発局は、この基本方針に基づき、「尻別川水系河川整備計画(大臣管理区間)」を策定するにあたり、学識経験を有する方々にご意見をいただくために「尻別川流域委員会」を設立し、下記の通り第2回を開催しましたのでお知らせします。



日時：平成21年6月2日 13:00～16:00  
場所：蘭越町ふれあいプラザ21

## 議事要旨(主な意見)

### ■第2回尻別川流域委員会の主な議事内容

1. 尻別川水系河川整備計画策定の流れ
2. 流域及び河川の概要  
(第1回流域委員会の補足説明)
3. 尻別川水系河川整備計画(原案)について



### ■尻別川流域委員会 委員名簿 (五十音順、敬称略)

氏名	所属	出席
おかもら としくに 岡村 俊邦	北海道工業大学 環境デザイン学科教授	●
○ きよし たつひろ 許士 達広	北海学園大学 社会環境工学科教授	●
ながさわ てつあき 長澤 徹明	北海道大学大学院 農学研究院教授	●
◎ はせがわ かずよし 長谷川 和義	(株)北開水工コンサルタント 先端技術開発センター所長	●
はまだ あきお 濱田 暁生	(株)シー・アイ・エス計画研究所 代表取締役会長	●
まやま ひろし 眞山 紘	(社)北海道栽培漁業振興公社 技術顧問	●

◎：委員長、○：副委員長、●：第2回尻別川流域委員会出席者

### 1. 尻別川水系河川整備計画策定の流れ

特に意見なし。

### 2. 流域及び河川の概要(第1回流域委員会の補足説明)

- ・中州に樹木が繁茂したことが原因で、局所洗掘を引き起こしていると記載しているが、原因と結果が逆ではないか。
- ・昭和32年の空中写真には中州に樹木が見られず、中州が当時は移動していたということだと思うが、現在はそこにヤナギが生えて、中州の移動がとまっている。なぜこのようになったのか理由がわかれば教えて頂きたい。
- ・経年変化を見ると、河状係数が小さく流量変動が激しくないということがわかる。その理由として流域が豪雪地帯であることが考えられるが、その特徴が河床の変化にも現れており、大事なポイントとして認識しておくべき。
- ・近年の洪水の特徴を見ると、次第に流出期間が短くなりピーク流量が大きくなっているようである。堤防にとっては、浸透だけでなく河床せん断力増加による危険箇所の側岸侵食や根元の洗掘のチェックが大事になってくるのではないかと。
- ・農業用水の取水について、許可取水量を下回っている取水実績があるが、どういうことを意味しているのか。溝筋の変化や、土砂の堆積、塩水遡上が原因で取れなかったということがあれば、改善が必要なのではないかと。
- ・河畔林試験の評価は、種ごとではなく、河畔林という一つの構造として分析、評価をして頂きたい。
- ・河道掘削は、現時点の断面を確保することに加えて、川幅の変化や樹木の影響による河床変化の予測の傾向も踏まえて考えて頂きたい。
- ・堤防の安全性は、水位変化が大きい洪水では、すべりに対する安全度に対して影響があるので、浸透に対してだけでなく他の安全性についても考えて頂きたい。
- ・減水区間は魚道に必要な流量が通水され、魚の遡上が確認されているから問題がないような記載をしているが、蘭越発電所から比羅夫発電所の取水堰までのあいだの、減水区間の比率が非常に高い。全く問題がないというような表現は適切ではないのではないかと。

3. 尻別川水系河川整備計画(原案)について

- ・河川環境の整備と保全に関する目標に「保全に努める」と書いているが、現在の河川環境の保全に努めるだけではなく、以前の河川環境への再生という主旨を記載して頂きたい。
- ・景観に関する目標については、保全や再生だけではなく、新たに整えていくという主旨にも触れて頂きたい。
- ・名駒と真狩橋の水質について、A類型に変更して、更に水質の向上を目指すといったようなことはできないのか。
- ・「アユ・イトウが生息する」、「清流日本一」といった尻別川の特徴は、流域の大部分が羊蹄山の火山岩屑に覆われていること、有数な豪雪地帯であることなど自然地理的な条件から成り立っていると思う。特に、雪の降り方や解け方の変化など温暖化現象等が流域の環境に重要な影響を及ぼす可能性があるため、尻別川の特徴をつくり上げている要因を意識することは大切なことである。
- ・河口の対応について、状況のモニタリングを続けると説明していたが、資料には書いていない。河口閉塞については、整備期間内20年間、常にモニタリングをして、状況に応じて対策を調整するのか。
- ・計画を上回る洪水が起きた場合、どこが一番危険なのか把握し、その上で、対策について記述をしているのか。
- ・蘭越町のハザードマップとの関係性はどのようになっているのか。
- ・現在から将来にわたって考えられる最大級の強さを持つ地震の強さはどのように決めるのか。それに対して構造基準上どこまで対策できるのか。
- ・必要な流量として概ね21m<sup>3</sup>/sとなっているが、現状では確保されているのか。
- ・河川整備基本方針で定めた目標に向けて段階的に整備を進めることとなっているが、この整備計画はどのような位置づけになっているのか。
- ・河道の掘削と河川環境の整備で、樹木の撤去、下枝払いと具体的な方法が書かれているが、今後の担当者がこの方法しか考えないことが懸念される。「樹林構造の改変等」を加えるなど今後の研究の結果に対して柔軟に対応できる記載を検討してほしい。
- ・ヤナギが繁茂しているというのは、決して豊かな自然環境ではない。河川工事で切られた後はヤナギしか生えていないという現状を認識して頂きたい。
- ・河道の掘削、河川環境の整備と保全、河道内樹木の保全・管理についてそれぞれ同じ図を使用していてわかりにくいので、書



- く内容を区分したほうがよいのではないか。
- ・河道掘削のところの文章が、魚類の生息・生育・繁殖の場となっているのが河畔林との誤解を与える。「魚類や鳥類等の生息・生育・繁殖の場となっている河畔林や水際、変化に富んだ流れを形成する瀬、淵、礫河原等の保全に努める」とした方がよい。
- ・釜場に向けての農地の排水路網の整備について関係機関と連携し、農業における内水被害の軽減に配慮しているのか。農業側の事業と関連性を持っているのか。
- ・広域防災対策のところでは、「光ファイバー」という言葉は入れたほうがよいのではないか。
- ・内水対策あるいは地震・津波対策で樋門の遠隔化について記載したほうがよい。
- ・「エコトーン」の用語について説明書きが必要ではないか。
- ・安全利用に対する活動についてどこかに記載するべき。
- ・施設のところでは安全対策について触れないのか。
- ・河川景観の保全と形成のところの「流域特性」とは具体的に何を指しているのか。
- ・河川景観の写真は、自然環境に近いものを使用するべきではないか。
- ・河川景観について具体的なイメージを与えるものとして、使用する写真は人工物ではないほうがよいのではないか。
- ・平成17年度に地域で策定した「羊蹄山麓広域景観づくり指針」を、河川景観のところに記載して頂きたい。
- ・「広域防災対策」と「危機管理」は関連した内容だが、なぜ項目を分けて記載しているのか。
- ・河川環境管理計画については記載しないのか。
- ・「河川景観の保全と形成」や「人と川とのふれあいに関する整備」が「河川空間の適正な利用・管理」、「河川美化のための体制」、「地域と一体となった取り組み」と関連した内容であるのに、項目を分けて記載してわかりにくくないか。
- ・どちらを見ても、ある程度その項目のことがわかるような記述の仕方はできないか。

■お知らせ■

- 尻別川水系河川整備計画(原案)に関する説明会及び公聴会が開催されました。開催状況、配付資料等については下記ホームページからご覧頂けます。
- 第3回流域委員会は9月16日(水) 蘭越町ふれあいプラザ21にて開催致します。



尻別川流域委員会事務局  
 北海道開発局 小樽開発建設部 工務課  
 〒047-8555 小樽市潮見台1丁目15番5号 TEL 0134-23-5195 FAX 0134-23-5236  
 URL <http://www.ot.hkd.mlit.go.jp/>

尻別川流域委員会の資料は小樽開発建設部のホームページからでもご覧頂けます。